

科目名		警察犬A			
科目区分	選択必修	授業形態	実習	担当講師	山美
使用教室	トレーニングルーム 野外	開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間数／1単位	
科目概要	・警察犬の役割と仕事内容を理解する ・犬の嗅覚を生かしたトレーニングへの取り組み、初歩段階の訓練手法を修得します ・実務科目に関わるための経験 警察犬指導手として北海道警察より嘱託されている。また一般社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC)の公認訓練士として長年家庭犬の訓練に携わっている。その経験を活かし指導を行える				
到達目標	・警察犬訓練の手法を修得 ・担当犬の訓練性能向上				
授業計画					
	講義概要				
1	授業の流れや目的の説明、現状の犬・人のトレーニング課題の確認、目標設定				
2	警察犬とは				
3	警察犬訓練の内容の説明				
4	追及のトレーニング① 地面のおやつを食べる				
5	追及のトレーニング② 足跡とおやつの紐づけ				
6	追及のトレーニング③ 足跡をたどればおやつ				
7	追及のトレーニング④ 追及の目的を犬に明確にゴールに目的				
8	追及のトレーニング⑤ 緩やかなカーブ				
9	追及のトレーニング⑤ 屈折				
10	臭気選別のトレーニング 物を咥える				
11	臭気選別のトレーニング 物を持ってくる				
12	臭気選別のトレーニング 選別の布を咥える・持ってくる				
13	臭気選別のトレーニング 選別台から布をもってくる				
14	臭気選別のトレーニング 嗅ぎ分け1/2				
15	トレーニング成果発表・試験				
使用教材					
成績評価	(定期試験)	40%	最終課題の方法	実技試験実施	
	(授業参加度)	50%			
	(出席)	10%			
その他 注意事項	・トレーニングの進行状況によって講義内容を変更する場合があります。 ・Instagramにてトレーニングの記録を随時残すこと				

科目名		トレーニングA			
科目区分	選択	授業形態	実習	担当講師	長尾・山美
使用教室	トレーニングルーム	開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	金曜日/1 講目	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	授業の内容及び方法 犬とのコミュニケーションを重点に、様々なシチュエーションの中で犬をトレーニングしていく。大会、デモンストレーション、イベント等参加企画。しつけから、資格試験、ドッグスポーツと幅広く犬に関わり、業界に通じる人材となるよう学ぶ。				
到達目標	犬とのコミュニケーション作りの習得 大会運営の実践力 大会参加・表彰台登壇				
講義概要					
1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明				
2	年間スケジュールの確認、目標設定				
3	犬をトレーニングする事の重要性。犬と関わる際の注意点。				
4	トレーニングに使われる道具の説明。準備。				
5	犬に関わる際の注意点。				
6	トレーニングで必要な用語。				
7	犬の内面を見る。指示の出し方。対応の方法。				
8	犬とのコミュニケーションスキルアップ。				
9	人間社会による犬への被害。その対処法。				
10	大会に向けての準備				
11	大会での実践作業				
12	学校犬とのマッチング				
13	担当犬決定。コミュニケーションの構築。				
14	担当犬との目標設定。訓練競技会、アジリティーへの理解。				
15	前期での犬とのコミュニケーションを生かした経過報告。				
使用教材		黒板・ホワイトボード・TV/プロジェクター・印刷分			
成績評価	(試験) 50% (授業参加度) 40% (出席) 10%	最終課題の方法		実技試験	
その他 注意事項					

科目名		ドッグスポーツA			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山本 昌
使用教室	トレーニングルーム	開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	火曜日／3・4限	単位時間/単位数		60単位時間/2単位	
科目概要	・関連科目:アジリティA				
	・授業の内容及び方法 ドッグスポーツで10年以上の大会出場・指導の経験から、アジリティーでは犬に伝わりやすいハンドリングメソッドを指導し、解説します。フリスビーは犬に取りやすいスローイング方法及び様々なトリックスローを指導します。				
到達目標	いつでも大会に出場できる実力と知識を持つこと				
授業計画					
	講義概要				
1	授業の目的と流れの説明				
2	ドッグスポーツをする上での注意点。人の場合				
3	ドッグスポーツをする上での注意点。犬の場合				
4	アジリティーのルールと道具の説明				
5	フリスビーのルールと種目の説明				
6	フリスビーの投げ方				
7	アジリティー、ハードルの飛ばせ方				
8	フリスビーのトリックスローの投げ方				
9	アジリティー、トンネルの入れ方				
10	フリスビーを犬に取らせる方法				
11	ドッグスポーツ後の犬のケア方法				
12	アジリティーコース(ビギナー)の解説				
13	フリスビーを犬が取った後の、レトリーブの方法				
14	アジリティーコース(ビギナー)をクリアする方法				
15	実技試験				
使用教材	プリント				
成績評価	(最終課題)	10%	最終課題の方法	実技	
	(授業参加	60%			
(出席)	30%				
その他 注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり				

科目名		競技会演習			
科目区分	必修	授業形態	実習	担当講師	山美
使用教室	トレーニングルーム	開講数	30	開講時期	2年前期
曜日/時限	金曜日/2講目	単位時間/単位数		60単位時間/3単位	
科目概要	競技会や資格試験、各種ドッグスポーツの規定を習得。参加に向けてさらなる担当犬とのコミュニケーション作り。訓練競技会では犬の内面を鍛え、性格に合った訓練目標をたてる。				
到達目標	犬が持っている能力を引き上げる　大会参加での実績作り　様々な犬の対応の習得				
授業計画					
	講義概要				
1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明。				
2	年間スケジュールの確認。目標設定。				
3	仮担当犬の理解。担当犬とのさらなるスキルアップ。				
4	競技会への取り組み				
5	訓練競技会でのポイント取得の為のトレーニング①				
6	訓練競技会でのポイント取得の為のトレーニング②				
7	訓練競技会でのポイント取得の為のトレーニング③				
8	競技会で運営に関して				
9	競技会スタッフとしての仕事				
10	各種競技会に向けて担当犬トレーニング				
11	〃				
12	各種競技会参加後の反省点。今後に向けてのトレーニング設計				
13	犬を飼育する際に起こりがちな問題点への対処法				
14	前期での犬とのコミュニケーションから広げた訓練披露、報告。				
15	実技試験				
使用教材		黒板・TV・プリント			
成績評価	(最終課題) (授業参加度) (出席)	40% 50% 10%	最終課題の方法		実技試験
その他 注意事項					

科目名	犬のしつけ基礎概論		
科目区分	必修	単位数	2
担当教員	山美 希実		
教室番号	時間割参照	開講数	15
使用教材	モニター		
授業の内容及び方法・目的			
・家庭内で起こり得る問題を理解し、対処法・アドバイスの仕方を習得。			
・犬を育てる過程で、仔犬の扱い方や注意点を理解し、問題を未然に防ぐ為の飼育方法を理解すること。			
・飼い主さんに対してわかりやすくアドバイスできる力をつける。			
・実務科目に関わるための経験			
警察犬指導手として北海道警察より嘱託されている。			
また一般社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC)の公認訓練士として			
回/週	講義概要		
1	授業の目的、評価についての説明 しつけの重要性・しつけとトレーニングの違い、注意点		
2	仔犬の成長段階とその特徴		
3	犬を飼うための備え、確認事項、飼う為には何が必要でいくらかかる？		
4	犬を迎えたら(1日の流れ)注意すること、触れ合う際の注意		
5	犬の一般常識確認 犬を飼うための常識(ワクチンは何が必要でいつ、フィラリア、ダニ、発情、妊娠、		
6	パピートレーニング (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
7	トイレトレーニング (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
8	ハウストレーニング、留守番 (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
9	社会化、物を噛む、甘噛み (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
10	仔犬に対して必要な取り組み(アイコンタクト&呼び戻し、体を触る、ご飯時)		
11	仔犬時からやめさせたいこと(食糞、マウンティング、顔なめ、おねだり、マーキング)		
12	犬の挨拶(犬同士、対人)お散歩の注意点、見られる問題。対応。 首輪、チョーク、ハーネス、ヘッドカラーそれぞれ特徴		
13	吠えの原因は様々。それぞれのパターンを理解して対応を考える		
14	犬種の特性と飼い易さ、どうアドバイスをするか しつけを飼い主さんに指導する。実際に寄せられるしつけ相談対応を考える		
15	実際に寄せられるしつけ相談対応を考える		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60	%	筆記試験を実施
授業参加度:	30	%	
出席:	10	%	
履修上の注意事項	実践を交えて行うことがあります		

科目名		犬のしつけ基礎演習	
科目区分	必修	単位数	1
担当教員	山美希実		
教室番号	トレーニングルーム	開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
・犬の基本的な扱い、接し方を習得し犬との信頼関係を構築する			
・犬に対する、正しい賞罰の方法を習得			
・犬に対して正しい指示だしができるようになる			
・実務科目に関わるための経験			
警察犬指導手として北海道警察より嘱託されている。			
また一般社団法人ジャパンケネルクラブ(JKC) の公認訓練士として			
長年家庭犬の訓練に携わっている。その経験を活かし指導を行える			
回	講義概要		
1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明		
2	学校犬の説明		
3	トレーニングの目的、犬と接する上での注意点		
4	リードの使い方、結び方、持ち方		
5	コミュニケーションのとり方、トレーニングの手順		
6	指示の出し方、対応の仕方		
7	褒めることについて、犬のモチベーションをあげるための工夫		
8	犬の性格を考えて接することの注意点		
9	犬の基本姿勢を理解する 座れ		
10	犬の基本姿勢を理解する 伏せ		
11	犬の基本姿勢を理解する 来い		
12	犬の基本姿勢を理解する 一緒に歩く		
13	犬の基本姿勢を理解する 待て		
14	散歩でのマナー		
15	実技試験		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験：	30 %	実技試験を実施する	
授業参加度：	60 %		
出席：	10 %		
履修上の注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり		

科目名		アジリティA			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山本 昌
使用教室	トレーニングルーム	開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	火曜日／3・4限	単位時間/単位数		60単位時間/2単位	
科目概要	・関連科目:ドッグスポーツA ・授業の内容及び方法 アジリティー、フリスビーのドッグスポーツ技術を取得し、それを通じて犬との関係性を深め、人と犬に怪我なく分かりやすいドッグスポーツの内容と方法を指導し、犬との信頼関係を構築して正しく指示が出来るようになるハンドリングメソッドを解説、実技をします。				
到達目標	大会で入賞すること				
授業計画					
	講義概要				
1	授業の目的と流れの説明				
2	競技をする上での犬とのコミュニケーションの取り方				
3	犬を叱らないで指示をする方法				
4	競技をする前の犬との上下関係の構築方法				
5	競技に対する犬の意欲の持ち上げ方				
6	フリスビーを遠くに投げる方法				
7	犬に物事を教えて行くときの順序(フォワードステップ・バックステップチェーン)				
8	競技するときの犬をコントロールする方法				
9	犬にアジリティー道具を認識させる方法 スラローム				
10	犬にアジリティー道具を認識させる方法 Aフレーム				
11	犬にアジリティー道具を認識させる方法 シーソー				
12	犬にアジリティー道具を認識させる方法 ドッグウォーク				
13	アジリティーコース(ビギナー以上)の解説				
14	アジリティーコース(ビギナー以上)をクリアする方法				
15	実技試験				
使用教材	プリント				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	10% 60% 30%	最終課題の方法		実技
その他 注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり				

科目名		動物介在活動			
科目区分	選択	授業形態	講義	担当講師	油谷 絵理
使用教室	232	開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	水曜日／4限	単位時間/単位数			
科目概要	・事前課題: アニマルセラピーがどのような活動なのかを事前に調べる。 ・事後課題: 復習課題と次講義の課題を授業内で提示します。 ・授業の内容及び方法 ドッグセラピー活動歴15年の経験とドッグトレーナーの観点からアニマルセラピーや補助犬の役割、効果について解説。必要なスキルについても体験しながら学んでもらいます。				
到達目標	アニマルセラピーや補助犬について学び役割を理解する				
授業計画					
	講義概要				
1	授業の進め方の説明、アニマルセラピーについて				
2	動物が介在する活動について(動物介在介入)				
3	動物が介在する活動について(セラピーの効果)				
4	ロボットセラピー、ドールセラピーについて				
5	ドッグセラピーについて				
6	高齢車の関わりを理解する				
7	子供との関わりについて				
8	体験学習(どんな体験で、自分にとってどんな体験だったか次回感想文提出)				
9	補助犬について				
10	盲導犬について				
11	介助犬について				
12	聴導犬について				
13	体験学習(どんな体験で、自分にとってどんな体験だったか次回感想文提出)				
14	体験学習(どんな体験で、自分にとってどんな体験だったか次回感想文提出)				
15	テスト実施				
使用教材	黒板・テレビ(映像)、プリント				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	50% 50% %	最終課題の方法	記述式試験	
その他 注意事項	飲料は可、授業内でスマートフォンの使用可。ランダムに授業中に小テスト行います。 意見、質問、批判などポジティブでもネガティブでも主義主張、主体的な発言に加点します。 進行状況により体験学習が前後する場合あり。				

科目名		救助犬B			
科目区分	選択必修	授業形態	実習	担当講師	長尾 みづき
使用教室	トレーニングルーム	開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	木曜日/	単位時間/単位数			
科目概要	授業の内容及び方法				
	災害救助犬について学び、実践的な訓練を行う。				
到達目標	・救助犬訓練を通して犬の能力、精神状態、接し方(扱い方)を学ぶ				
授業計画					
	講義概要				
1	現時点での犬との関係性、訓練精度の確認				
2	救助犬について				
3	サークルトレーニング① 人と褒美を結びつける				
4	サークルトレーニング② 対象人物(要救助者)の認知				
5	サークルトレーニング③ 応用編				
6	訓練① 咆哮				
7	訓練② 告知作業(ヘルパーが見える状態)				
8	訓練③ 告知作業(ヘルパーが見えない状態)				
9	訓練④ 靴を履かせる(対人)・休止				
10	訓練⑤ トンネル・前進				
11	訓練⑥ 渡橋・シーソー				
12	訓練⑦ 搜索(平面)				
13	訓練⑧ 搜索(瓦礫)				
14	訓練⑨ 搜索(瓦礫)				
15	実技試験(服従作業、搜索作業【要救1名】)				
使用教材	黒板またはホワイトボード、アラートボックス				
成績評価	(最終課題)	40%	最終課題の方法	実技試験	
	(授業参加	50%			
	(出席)	10%			
その他 注意事項	・訓練の進行状況によって内容の変更があります 授業に対する積極的な態度や訓練に対する努力を重視します				

科目名		訓練基礎E			
科目区分	選択	授業形態	実習	担当講師	山美
使用教室	トレーニングルーム	開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限		単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	授業の内容及び方法 公式競技会に向けて訓練手技の習熟度を高めるための考え方や方法を学修し担当犬で実際に応用するための手法を修得します				
到達目標	大会参加・表彰台登壇				
講義概要					
1	競技会課目の把握 家庭犬訓練初等科				
2	家庭犬訓練課目の徹底 脚側行進				
3	家庭犬訓練課目の徹底 紐無し脚側行進				
4	家庭犬訓練課目の徹底 脚側行進 コの字				
5	家庭犬訓練課目の徹底 呼招～脚側停座まで				
6	家庭犬訓練課目の徹底 脚側停座～伏臥				
7	家庭犬訓練課目の徹底 脚側停座～立止				
8	家庭犬訓練課目の徹底 申告～立止 最初から最後まで				
9	苦手科目の克服				
10	誘惑に対する対応				
11	集中力アップへの工夫				
12	訓練の効率をあげる				
13	失敗に対するアプローチ				
14	家庭犬訓練初等科課目のテスト				
15	家庭犬訓練初等科課目のテスト				
使用教材	黒板・ホワイトボード・TV/プロジェクター・印刷分				
成績評価	(試験) 50% (授業参加度) 40% (出席) 10%	最終課題の方法		実技試験	
その他注意事項	内容は訓練の進み具合により変動します 犬の成長を大きく評価します				

科目名		警察犬B			
科目区分	選択必修	授業形態	実習	担当講師	山美
使用教室	トレーニングルーム 野外	開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間数／1単位	
科目概要	・犬の嗅覚を生かしたトレーニングへの取り組み。 ・警察犬審査会・競技会にむけた実践的な訓練手法を修得します				
到達目標	・競技会出場 ・警察犬審査会受験 ・担当犬の訓練性能向上				
授業計画					
	講義概要				
1	警察犬Aでの進行状況確認				
2	追及トレーニング 他者の足跡・距離に変化				
3	追及トレーニング 他者の足跡・距離に変化				
4	追及トレーニング 他者の足跡・距離に変化				
5	追及のトレーニング 長い距離				
6	追及のトレーニング 左右屈折 鋭角				
7	追及のトレーニング 左右屈折 鋭角				
8	追及のトレーニング 左右屈折 鋭角				
9	追及のトレーニング⑤ 様々なコース				
10	臭気選別のトレーニング 嗅ぎ分け1/2～1/5 自臭				
11	臭気選別のトレーニング 直付け他臭				
12	臭気選別のトレーニング 移行臭				
13	臭気選別のトレーニング 移行臭				
14	臭気選別のトレーニング 移行臭				
15	トレーニング成果発表・試験				
使用教材					
成績評価	(定期試験)	40%	最終課題の方法	実技試験実施	
	(授業参加度)	50%			
	(出席)	10%			
その他 注意事項	・トレーニングの進行状況によって講義内容を変更する場合があります。 ・Instagramにてトレーニングの記録を随時残すこと				

科目名	行動修正演習Ⅱ		
科目区分	必修	単位数	1
担当教員	山美希実		
教室番号	学内各実習室	開講数	15コマ 30時間
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
・学内犬の抱える問題行動の把握、原因究明を行い担当者内または学内で適切なコミュニケーションを取り、情報共有を行う ・問題行動に対しての改善のプログラムを立て、その都度の犬の変化を観察 ・改善プログラムの実行、犬の行動の変化を見る観察力を培う ・犬の問題行動改善と周囲に対しての指導力を養う ◎上記の内容を、担当教員の実務経験【動物取扱業】を活用し、実例や訓練について犬を用いて実践的に指導する。			
回/週	講義概要		
1	担当犬の把握（行動修正演習Ⅰでの取り組みと経過の確認）		
2	担当犬の把握（プログラムの見直し）		
3	実例の共有（診察台）		
4	実例の共有（給餌）		
5	実例の共有（音）		
6	改善プログラムの実行		
7	改善プログラムを全体で発表・共有		
8	改善プログラムの実行②		
9	改善プログラムを通して犬の反応や行動変化のチェック		

10	改善プログラムの見直し	
11	改善プログラムの経過報告・全体で共有	
12	改善プログラムの経過報告・全体で共有からの意見交換	
13	改善プログラムの効果について	
14	改善プログラムの発展	
15	成果の発表	
成績評価の方法 最終課題（レポート）：50% 授業参加度：40% 出席：10%		定期試験の方法 担当犬の改善プログラムレポートを作りあげること
履修上の注意事項		授業外での取り組みも大変重要となります。犬の変化も評価の一つとなります

科目名		ウィッグA			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤 愛
使用教室	トリミング実習室	開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	金曜日/4限	単位時間/単位数		30単位時間/1単位	
科目概要	・関連科目：トリミング実習、グルーミング基礎概論Ⅰ ・授業内容及び方法 プードルの骨格の構成を含むスタンダード(犬種標準)を理解し、それを表現する テディベアカット及びケネル &ラムクリップを説示します。 他、シザー・コームなどの道具を正しい扱い方、カット時における姿勢や目線、 立ち位置、テーブルマナーなども学びます。 ・実務科目に関わるための経験 トリミングサロンまた動物病院でトリマー業務の実務経験があり、 また動物病院では診療補助も行った。 その経験を活かし業務経験の事例を学生に紹介しつつ、 動物医療の観点から犬猫に配慮したトリミング指導を行える。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解して、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				
授業計画					
	講義概要				
1	ドッグマネキンのブラッシングとコーミング ①				
2	ドッグマネキンのブラッシングとコーミング ②				
3	ドッグマネキンを使用してのシザーリング練習				
4	トリミングリボンの付け方(ラッピング)				
5	プードルのスタンダード(犬種標準)を学ぶ ①				
6	プードルのスタンダード(犬種標準)を学ぶ ②				
7	プードルのカット手順を覚える				
8	ドッグマネキン 足回りカット				
9	ドッグマネキン 体高と体長の見定め				
10	ドッグマネキン 体躯のカット				
11	ドッグマネキン 後躯のアウトラインを作る				
12	ドッグマネキン 前躯のアウトラインを作る				
13	ドッグマネキン 前肢・後肢のカット ①				
14	ドッグマネキン 前肢・後肢のカット ②				
15	最終課題実施				
使用教材	配布プリント、教科書、ドッグマネキン				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	25% 60% 15%	最終課題の方法	記述式試験	

**その他
注意事項**

飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、ポートフォリオを含む提出物、清掃などを評価します。

科目名		ウィッグB			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤 愛
使用教室	トリミング実習室	開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限		単位時間/単位数		30単位時間/1単位	
科目概要	・関連科目：トリミング実習、スタンダード美容理論A ・授業内容及び方法 プードルの骨格構成を含むスタンダード(犬種標準)を理解し、それを表現する テディベアカット及びケネル&ラムクリップを学びます。他、シザー・コームなど 道具を正しく扱い、カット時における姿勢や目線、立ち位置、テーブルマナーも 身に付けます。 ・実務科目に関わるための経験 トリミングサロンまた動物病院でトリマー業務の実務経験があり、 また動物病院では診療補助も行った。 その経験を活かし業務経験の事例を学生に紹介しつつ、 動物医療の観点から犬猫に配慮したトリミング指導を行える。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解して、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				
講義概要					
1	ドッグマネキン アンダーラインの設定				
2	ドッグマネキン タックアップの設定と中躯のカット				
3	ドッグマネキン 前躯・中躯・後躯の繋ぎの確認				
4	ドッグマネキン テディベアカットの顔カット ①				
5	ドッグマネキン テディベアカットの顔カット ②				
6	ドッグマネキン ネックラインのカット、耳・尾のカット				
7	ドッグマネキン 全体のバランス、各部位の繋ぎの確認と振り返り ①				
8	ドッグマネキン 全体のバランス、各部位の繋ぎの確認と振り返り ②				
9	フェイス用ウィッグ テディベアカットの顔カット ①				
10	フェイス用ウィッグ テディベアカットの顔カット ②				
11	ドッグマネキン ケネル&ラムクリップの顔・ネックのクリッピング				
12	C級ライセンス試験対策 ①				
13	C級ライセンス試験対策 ②				
14	課題実施(C級ライセンス模擬試験) ①				
15	課題実施(C級ライセンス模擬試験) ②				
使用教材	教科書、配布プリント、ドッグマネキン				
成績評価	(最終課題) (授業参加度) (出席)	25% 60% 15%	最終課題の方法	実技試験	
その他 注意事項	飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、ポートフォリオを含む提出物、清掃などを評価します。				

科目名		グルーミング基礎概論Ⅰ			
科目区分	必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤 愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	金曜日/3限	単位時間/単位数		30単位時間/2単位	
科目概要	・事前課題：使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題：次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目：トリミング実習、ウィッグ ・授業内容及び方法 グルーミング(トリミング)の目的・各作業における道具の種類や用途、基本的なカットの方法、また犬の生態についてを説示します。 ・実務科目に関わるための経験 トリミングサロンまた動物病院でトリマー業務の実務経験があり、また動物病院では診療補助も行った。 その経験を活かし業務経験の事例を学生に紹介しつつ、動物医療の観点から犬猫に配慮したトリミング指導を行える。				
到達目標	グルーミング各作業の基礎やベーシックなカット方法を習得する				
授業計画					
	講義概要				
1	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途 ①（グルーミング・トリミング）				
2	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途 ②（ブラッシング・コーミング）				
3	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途 ③（クリッピング・爪切り・耳掃除）				
4	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途 ④（ベISING・ドライング）				
5	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途 ⑤（クリッパー及びシザーの構造）				
6	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途 ⑥（足回り等の部分カット）				
7	グルーミング犬種の各パーツのカット方法				
8	犬種のバラエティ ①				
9	犬種のバラエティ ②				
10	犬体名称・骨格名称・サイズ名称				
11	犬の皮膚と被毛について				
12	犬の歯と咬合について				
13	全身クリッピング方法と注意点、顔の部分カット方法				
14	前期定期試験実施				
15	前期定期試験の解答と解説				
使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック、犬種図鑑)、配布プリント				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	40% 45% 15%	最終課題の方法	記述式試験	
その他	飲料可 授業内で指示に応じてインターネット使用可 授業参加度はテキストの正確性 授業に関係な				

その他
注意事項

取付可。授業内で指小に添してオンラインで活用可。授業参加度はすべてに付、授業に因添ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。

科目名	グルーミング基礎演習Ⅰ（1年共通前期）				
科目区分	必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		2単位/60時間	
科目概要	・関連科目 グルーミング基礎概論Ⅰ				
	・授業の内容・方法 2コマ（15回の実習）ごと様々な犬種に実際触れながら犬の状態の把握、道具の使用・保定・グルーミングについて解説、実習を行います。				
到達目標	・実務科目に関わるための経験				
	トリミングサロンまた動物病院でトリマー業務の実務経験があり、また動物病院では診療補助も行った。その経験を活かし業務経験の事例を学生に紹介しつつ、動物医療の観点から犬猫に配慮したトリミング指導を行える。				
到達目標	基本的な道具の使用、犬への対応、シャンプー＆ブローの基礎、ベーシックの基本				
授業計画					
	講義概要				
1	実習室の使用法、清掃・消毒について、講師によるトリミング実演				
2	道具の正しい持ち方と使用方法				
3	犬体チェック（皮膚、被毛、耳、目、その他健康状態）				
4	ベーシック（爪切りと爪やすり）				
5	ベーシック（足裏バリカン）				
6	ベーシック（耳掃除）				
7	ベーシック（ブラッシング）				
8	ベーシック（肛門腺）				
9	ベーシック（シャンプー）				
10	ベーシック（ブロー）				
11	シザーとコームの正しい使用				
12	ベーシック（肛門回りカット）				
13	ベーシック（足回りカット）				
14	ベーシック（ヒゲカット）				
15	ベーシック（腹バリ）				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	（最終課題）	20%	最終課題の方法	授業最終日に実技	
	（授業参加	70%			
（出席）	10%				
その他注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名	ドッググッズプロデュース				
科目区分	必修	授業形態	実習	担当講師	金平 佳奈子
使用教室	231	開講数	30	開講時期	前期
曜日/時限	木曜日 1. 2講目	単位時間/単位数		30単位時間／2単位	
科目概要	洋裁の基本を学び、ドッググッズを製作する。道具や生地の使用方法を学ぶ。製作過程をこなし、技術を習得する中で自由課題では自らのデザインした作品を製作できるようになる。				
到達目標	製図、裁断、縫製の一連の作業を身に着ける。デザイン性を考え、一つ一つの作業を丁寧に 行い、より完成度の高い作品を目指す。				
授業計画					
	講義概要				
1	洋裁の基本				
2	ラップ型ウェア製作				
3	Tシャツ製作				
4	ベッド製作				
5	パーカーorトレーナー製作				
6	自由課題				
7	試験最終課題製作				
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用教材	ミシン・ロックミシン・アイロン・洋裁用具・製作過程のプリント、型紙				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	20% 65% 15%	最終課題の方法	最終課題作品の制作	
その他 注意事項	飲料は可。スマホ利用は講義に関する調べもののみ使用可。作業台の上には作業に必要なものの以外 乗せない。講義前に全てしまつて、実習に必要な道具を準備しておいてください。				

科目名		グルーミング基礎演習A～F(専攻共通後期)			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	180	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		12単位/360時間	
科目概要	・関連科目 グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ・授業の内容・方法 2コマ(15回の実習)ごと様々な犬種に実際触れながら犬の状態の把握、道具の使用・保定・グルーミングについて解説、実習を行います。特にシャンプー＆ブローに関しては高い完成度を目指します。学生それぞれの修得状況に応じてステップアップ				
到達目標	ベーシックの完成度、犬体コントロールとコミュニケーション、正しい道具の使用				
授業計画					
	講義概要				
1	犬体コントロールと声掛けと表情				
2	ベーシック(爪切りと爪やすり)				
3	ベーシック(足裏バリカン)				
4	ベーシック(耳掃除)				
5	ベーシック(ブラッシング)				
6	ベーシック(肛門腺)				
7	ベーシック(シャンプー)				
8	ベーシックの完成度(犬種ごと部位ごとのシャンプー)				
9	ベーシックの完成度(ブロー)				
10	ベーシックの完成度(犬種や毛質ごとのブロー)				
11	ベーシックの完成度(腹バリ、肛門回り)				
12	ベーシックの完成度(ヒゲカット)				
13	ベーシックの完成度(毛種ごとの足回りカット)				
14	道具の正しい使用、シザーとコームの正しい使用				
15	ベーシックの完成度と時間				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名		グルーミング演習A～F			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	180	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		12単位/360時間	
科目概要	・関連科目 グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ・授業の内容・方法 それぞれの選択状況に応じ基本のベーシック、カット、接客 ペットカット、犬種ごとのスタンダードカット、デザインカットなどに 取り組めます。				
到達目標	犬に合わせた保定や声掛け・対応。ベーシックの完成度とスピードアップ。カット				
授業計画					
	講義概要				
1	犬体コントロールと声掛け				
2	道具の正しい使用、シザーとコームの正しい使用				
3	ベーシックの完成度と時間				
4	カット				
5	全貌				
6	バランス				
7	目線の高さ				
8	作業中の犬との適切な距離				
9	表情とセルフコントロール				
10	シザーワーク				
11	犬種ごとのスタンダードへの理解と欠点カバーの実践				
12	接客とカウンセリング				
13	時間内での完成				
14	清掃・消毒				
15	周囲への配慮				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名		ケネルリップA～B			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	60	開講時期	3年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		4単位/120時間	
科目概要	・関連科目　グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ウィッグ、コートケア ・授業の内容・方法　JKC　C級ライセンス取得				
到達目標	犬に合わせた保定や声掛け・対応。ベーシックの完成度とスピードアップ。カット				
授業計画					
	講義概要				
1	ケネルクリップ復習				
2	イラスト作成				
3	クリッピング(顔、手足、テール)				
4	イマジナリーライン、フットライン				
5	全体のバランス(アウトライン)				
6	ボディバランス(各パーツ)①				
7	ボディバランス(各パーツ)②				
8	クラウン、テール				
9	ケネル&ラム・クリップ①				
10	ケネル&ラム・クリップ②				
11	ケネル&ラム・クリップ③				
12	ケネル&ラム・クリップ④				
13	ケネル&ラム・クリップ⑤				
14	ケネル&ラム・クリップ⑥				
15	ケネル&ラム・クリップ⑦				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10　90%以上→9　80%以上→6　75%以上→4　75%未満→0 ※ 授業参加点　2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点　179～120→60点　119～90→50点　89～75→40点　74～→30点				

科目名	コートケアA～F				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山田 由香
使用教室	トリミングルーム	開講数	180	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		12単位/360時間	
科目概要	・関連科目 グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ・授業の内容・方法 パートナードッグのコート管理、テーブルマナーを中心に実施 被毛に合わせたブラシの使い分け、シャンプーブロー、 セットペーパーの使用、チップング				
到達目標	犬に合わせた保定や声掛け・対応。ベーシックの完成度とスピードアップ。カット				
授業計画					
	講義概要				
1	テーブルマナー				
2	リーシュの使用				
3	枕の使用				
4	ブラシの使い分け				
5	パートナードッグに合うシャンプーを見つける1				
6	パートナードッグに合うシャンプーを見つける2				
7	パートナードッグに合うシャンプーを見つける3				
8	爪やすり				
9	チップング				
10	ラテックスバンドの使用				
11	ラッピングライン				
12	ラッピングペーパーの使用				
13	シャンプー研究				
14	ブロー研究1				
15	ブロー研究2				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名		ショークリップA～B			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山田 由香
使用教室	トリミングルーム	開講数	60	開講時期	2年前期～2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		4単位/120時間	
科目概要	・関連科目 グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ウィッグ、コートケア ・授業の内容・方法 パートナードッグによるパピークリップを修得				
到達目標	犬に合わせた保定や声掛け・対応。ベーシックの完成度とスピードアップ。カット				
授業計画					
	講義概要				
1	テーブルマナー				
2	リーシュの使用				
3	枕の使用				
4	ブラシの使い分け				
5	セットペーパーの使用				
6	クリッピング				
7	スウェルの作成				
8	セットスプレーの使用①				
9	セットスプレーの使用②				
10	セットスプレーの使用③				
11	セットスプレーの使用④				
12	パピークリップ①				
13	パピークリップ②				
14	パピークリップ③				
15	パピークリップ④				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名		トリミングA～G			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	210	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		14単位/420時間	
科目概要	・関連科目 グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ウィッグA～E、コートケアA～F ・授業の内容・方法 A～Gで開講 資格取得を目指し基礎から応用まで修得				
到達目標	犬種、カットなどに合わせたベーシック。資格取得に向けたカット				
授業計画					
	講義概要				
1	犬体コントロールと声掛け				
2	道具の正しい使用、シザーとコームの正しい使用				
3	ベーシックの完成度と時間				
4	カット				
5	全貌				
6	バランス				
7	目線の高さ				
8	作業中の犬との適切な距離				
9	表情とセルフコントロール				
10	シザーワーク				
11	犬種ごとのスタンダードへの理解と欠点カバーの実践				
12	接客とカウンセリング				
13	時間内での完成				
14	清掃・消毒				
15	周囲への配慮				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名		フードコーディネート			
科目区分	選択	授業形態	実習	担当講師	高砂 友美
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限		単位時間/単位数			
科目概要	総合栄養食と一般食の違いについて理解する。 犬の使用しても良い安全な食材を選択し衛生面に配慮し調理を行う。				
到達目標	犬の使用してもいい食材を理解し準備から後片付けまでをスムーズに行う。				
授業計画					
	講義概要				
1	調理の基礎とトラブルになりやすい食材について				
2	パンケーキ				
3	スティックケーキ(野菜や果物) 端午の節句デコレーション				
4	スイートポテト				
5	牛キッシュ				
6	七夕寒天よせ				
7	お魚和風ハンバーグ				
8	ミートローフ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用教材	調理室で行います。				
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法			
その他 注意事項	調理実習中はエプロンを使用しますので各自用意してください。				

科目名		ホリスティックグルーミングA～E			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	150	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		10単位/300時間	
科目概要	・関連科目 スタンダード美容理論 基礎看護ⅠⅡ ・授業の内容・方法 皮膚・被毛・体臭の状態によりシャンプー剤の変更や保湿の実施、各種パック、炭酸泉の使用などを行う				
到達目標	犬の状態把握と適切な対処				
授業計画					
	講義概要				
1	犬の状態把握				
2	適切な対処の検討				
3	保湿				
4	ハーブパック				
5	シルクパック				
6	はちみつ泡パック				
7	プロテイン				
8	ケラチン				
9	プロテイン 温浴				
10	ケラチン 温浴				
11	炭酸泉 かけ流し				
12	炭酸泉 温浴				
13	ハーブ温浴				
14	シャンプーマシンの使用				
15	保温				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) 20% (授業参加 70% (出席) 10%	最終課題の方法		授業最終日に実技	
その他 注意事項	※ 出席点100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0 ※ 授業参加点 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点 225～180→70点 179～120→60点 119～90→50点 89～75→40点 74～→30点				

科目名		動物行動学Ⅰ			
科目区分	必修	授業形態	演習	担当講師	小田
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		2単位/30時間	
科目概要	・事後課題:復習課題と次講義の課題を授業内で提示します。 イヌ学ではイエイヌの進化と家畜を学び、イエイヌが作出された目的、それぞれの犬種による行動特性を学ぶ。動物行動学総論では動物行動学の基本概念、行動の進化、イエイヌの発達行動および、ネコの進化と家畜化、ネコの発達行動を学ぶ。				
到達目標	イヌ学ではイエイヌを扱う上で、犬種による違いを理解し伴侶動物として適正に扱うことができるスキルを身に着ける。動物行動学では、動物の行動を理解する知識を身に着け、イヌとネコの違いを理解する。				
授業計画					
	講義概要				
1	イヌの進化と家畜化①(オオカミからイヌへ)				
2	イヌの進化と家畜化②(犬種の成り立ちⅠ)				
3	イヌの進化と家畜化③(犬種の成り立ちⅡ)				
4	ネコの進化と家畜化①(リビアヤマネコからイエネコへ)				
5	イヌの発達行動学①(発達行動のステージ)				
6	イヌの発達行動学②(遺伝子による影響、行動特性)				
7	イヌの発達行動学③(環境による影響)				
8	イヌの発達行動学④(トレーニングによる影響)				
9	イヌの感覚(視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)				
10	ネコの発達行動学①(発達行動のステージ)				
11	ネコの発達行動学②(感覚器の発達)				
12	ネコの発達行動学③(摂食行動と捕食行動の発達)				
13	ネコの発達行動学④(遊びの発達)				
14	ネコの感覚(視覚、聴覚、嗅覚、)				
15	最終課題&総括				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	50% 35% 15%	最終課題の方法	授業最終日に試験	
その他 注意事項	授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることとする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。				

科目名		動物行動学Ⅱ			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	小田
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		2単位/30時間	
科目概要	・事後課題:復習課題と次講義の課題を授業内で提示します。				
	イエイヌとイエネコの社会的な行動を、イヌ科動物ネコ科動物の社会的な行動との相違点を踏まえ、総合的に理解する。				
到達目標	イエイヌ、イエネコの行動を観察した時に、その行動の意味を考えることができるようになる。				
授業計画					
	講義概要				
1	イエイヌの社会的な行動1(他のイヌ科動物の行動との比較)				
2	イエイヌの社会的な行動2(視覚を使ったコミュニケーション)				
3	イエイヌの社会的な行動3(視覚を使ったコミュニケーション、カーミングシグナル)				
4	イエイヌの社会的な行動4(嗅覚を使ったコミュニケーション)				
5	イエイヌの社会的な行動5(触覚、音声を使ったコミュニケーション、その他維持行動)				
6	イエイヌの社会的な行動6(その他維持行動)				
7	イエイヌの社会的な行動7(発情のサイクル)				
8	イエイヌの社会的な行動8(交尾行動、母性行動)				
9	イエイヌと人間との関係				
10	イエネコの社会的な行動1(イエネコの基本)				
11	イエネコの社会的な行動2(視覚を使ったコミュニケーション)				
12	イエネコの社会的な行動3(嗅覚を使ったコミュニケーション)				
13	イエネコの社会的な行動4(触覚、音声を使ったコミュニケーション、その他維持行動)				
14	イエネコの社会的な行動5(繁殖行動)				
15	イエネコと人間との関係				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	50% 35% 15%	最終課題の方法		授業最終日に試験
その他 注意事項	授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることとする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。				

科目名		動物行動学Ⅲ			
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	小田
使用教室		開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		2単位/30時間	
科目概要	・事後課題:復習課題と次講義の課題を授業内で提示します。				
	動物の行動の学習理論を学ぶことにより、動物の行動をより深く理解するとともに、動物に対し、動物の福祉に基づき、新たな行動を学習させていくことを学ぶ。また、動物の特にイヌとネコの問題行動について、その分類と行動修正法についても学ぶ				
到達目標	馴化、脱感作、古典的条件付け、オペラント条件付けなどをしっかり理解する				
授業計画					
	講義概要				
1	行動の学習理論① 馴化、感作、脱感作、般化、鋭敏化				
2	行動の学習理論② 古典的条件付け1				
3	行動の学習理論③ 古典的条件付け2				
4	行動の学習理論④ 古典的条件付け3				
5	行動の学習理論⑤ オペラント条件付け1				
6	行動の学習理論⑥ オペラント条件付け2				
7	行動の学習理論⑦ オペラント条件付け3				
8	行動の学習理論⑧ オペラント条件付け4				
9	行動の学習理論⑨ オペラント条件付け5				
10	行動修正法				
11	動物の問題行動				
12	イヌの攻撃行動の分類、要因				
13	ネコの攻撃行動の分類、要因				
14	イヌの恐怖、不安による問題行動の分類、要因				
15	実際のイヌの問題行動について、行動修正を考える				
使用教材	配布PDFなど				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	50% 35% 15%	最終課題の方法		授業最終日に試験
その他 注意事項	授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることとする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。				

科目名		基礎看護			
科目区分	必修	授業形態	講義	担当講師	高砂 友美
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限		単位時間/単位数			
科目概要	動物の健康管理を行う上で、とても大切な正常を学び、状態の変化を相手に伝えるポイントや対応方法も学んでいきます。 小テストを行い授業の理解度を図ります。				
到達目標	正常を知ることにより状態の変化に気づき相手に分かりやすく伝える事を目標とします。				
授業計画					
	講義概要				
1	健康管理(TPR)				
2	体型（BCS）				
3	耳・外耳炎・耳浴				
4	皮膚と皮膚炎				
5	皮膚の状態から見る疾患と対応①				
6	皮膚の状態から見る疾患と対応②				
7	薬用シャンプーの種類				
8	外部寄生虫と内部寄生虫				
9	便から見る異常				
10	尿から見る異常				
11	混合ワクチン				
12	狂犬病予防注射				
13	歯について				
14	保定と投薬・点眼方法				
15	試験				
使用教材					
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法		試験	
その他 注意事項	授業中のスマホ・パソコンなどのモバイル機器の使用は不可です。 小テストの結果は理解の度合いとし授業参加度として評価します。				

科目名		基礎看護Ⅱ			
科目区分	必修	授業形態	講義	担当講師	高砂 友美
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限		単位時間/単位数			
科目概要	基礎看護を理解した上で、予防獣医療について学んでいきます。 小テストを行い授業の理解度を図ります。				
到達目標	病気を予防するためにの必要な知識を身に着けます。				
授業計画					
	講義概要				
1	感染と消毒				
2	発情から出産①				
3	発情から出産②				
4	新生仔について				
5	不妊手術とは				
6	必要とされる栄養素①				
7	必要とされる栄養素②				
8	ダイエットの必要性				
9	高齢犬への対応と注意				
10	心疾患への対応と注意				
11	関節疾患への対応と注意				
12	アンケートで知りたい犬種①				
13	アンケートで知りたい犬種②				
14	応急処置とエマージェンシー				
15	試験				
使用教材					
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法		試験	
その他 注意事項	授業中のスマホ・パソコンなどのモバイル機器の使用は不可です。 小テストの結果は理解の度合いとし授業参加度として評価します。				

科目名		愛玩動物飼養管理士対策講座			
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	向 日奈子
使用教室		開講数	15	開講時期	2年後期
曜日/時限		単位時間/単位数		30時間2単位	
科目概要	・事前課題：次の授業で行う箇所のデータ・プリントを渡すので事前に見ておく ・事後課題：毎回の授業終わりにFormsにて課題を出します 最終的には愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。 資格習得のみが目的ではなく、前期から継続し動物の飼養管理・しつけ等の知識習得を図る				
到達目標	愛玩動物飼養管理士2級の合格				
授業計画					
	講義概要				
1	【第Ⅳ編】動物の飼養管理～動物の繁殖				
2	【第Ⅴ編:動物の飼養管理】犬の飼養管理～猫の飼養管理				
3	【第Ⅴ編:動物の飼養管理】その他の哺乳類の飼養管理ウサギ～チンチラ				
4	【第Ⅴ編:動物の飼養管理】鳥類の飼養管理～手乗り鳥として飼養する				
5	【第Ⅴ編:動物の飼養管理】爬虫類の飼養～終末期のケアと介護				
6	【第Ⅴ編:動物の飼養管理】動物の保定～室内飼養猫のしつけの基本				
7	確認問題①（40問）				
8	確認問題②（60問）+最終課題				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用教材	愛玩動物飼養管理士教本2級2巻、ペットの飼養管理、Googleフォーム、プリント等				
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法		マークシート形式の試験	
その他 注意事項	・課題をモバイルを使い行う為スマホ使用可※ただし、使用許可を出した時限定。 ・事後課題を次の授業で確認します。 ・最終課題よりも課題と授業態度を評価します。※もちろん課題をやってこなかった場合は評価が下がります ・教科書・配布物は必ず持ってくること ・飲み物は飲んでも可 ※進行具合により授業計画が多少前後することがあります				

科目名		愛玩動物飼養管理士総論			
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	向 日奈子
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限		単位時間/単位数		30時間2単位	
科目概要	・事前課題：次の授業で行う箇所のデータを送るので事前に見ておく ・事後課題：毎回の授業終わりにFormsにて課題を出します 最終的には愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。 資格習得のみが目的ではなく、動物に対する歴史・法律・適正飼養等様々な分野を学び				
到達目標	現在の人と動物の関わりからその歴史まで動物に対する思想・動物観の移り変わりを知る。 さらに動物愛護法について知識を深める				
授業計画					
	講義概要				
1	【第Ⅰ編:愛玩動物飼養管理士】 社団法人日本愛玩動物協会の目的・事業、愛玩動物飼養管理士とは				
2	【第Ⅱ編:人と動物の関係学Ⅰ】 人と動物のかかわり～海外の動物観①				
3	【第Ⅱ編:人と動物の関係学Ⅰ】 人と動物のかかわり～海外の動物観②				
4	【第Ⅱ編:人と動物の関係学Ⅰ】 多様な動物思想とその歴史①～共生という考え方①				
5	【第Ⅱ編:人と動物の関係学Ⅰ】 多様な動物思想とその歴史①～共生という考え方②				
6	【第Ⅱ編：人と動物の関係学Ⅰ】 利用目的により異なるかかわりかた～動物愛護の今後の展望				
7	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】動物と法律～動物の飼養及び保管に関する基準①				
8	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】動物と法律～動物の飼養及び保管に関する基準②				
9	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】動物取扱業①第一種動物取扱業～虐待と罰則				
10	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】特定動物～周辺の生活環境の保全等				
11	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】飼育動物と関係法令～愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律				
12	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】野生動物と関係法令Ⅰ、【第Ⅳ編:ペット業界の現状と広がり】				
13	【第Ⅴ編：動物の体の仕組みと働き】体の基本の仕組み～老廃物の排出、異物の撃退と解毒				
14	【第Ⅴ編：動物の体の仕組みと働き】情報を取り入れる～子どもを産み育てる				
15	試験（本試験同様のマークシートによるもの）※課題報告問題が来ていれば実施				
使用教材	愛玩動物飼養管理士教本2級1巻、Forms、プリント等				
成績評価	(最終課題) (授業参加度) (出席)	50% 35% 15%	最終課題の方法	マークシート形式の試験（40分）	
その他 注意事項	・課題をモバイルを使い行う為スマホ使用可※ただし、使用許可を出した時限定。 ・事後課題を次の授業で確認します。 ・最終課題よりも課題と授業態度を評価します。※もちろん課題をやってこなかった場合は評価が下がります ・教科書・配布物は必ず持ってくること ・飲み物は飲んでも可 ※進行具合により授業計画が多少前後することがあります				

科目名		スタンダード美容理論A			
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤 愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限		単位時間/単位数		30単位時間/2単位	
科目概要	・事前課題 : 使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題 : 次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目 : トリミング(グルーミング)、ウィッグ ・授業内容及び方法 様々な犬種の歴史や特徴、スタンダードを理解し、また各犬種毎のペットクリップのバリエーションやトリミング技法を説示します。				
到達目標	様々な犬種のペットクリップやトリミング技法を習得し、実技授業に生かして技術を身に付ける				
授業計画					
	講義概要				
1	グルーミング用語とその意味 ①				
2	グルーミング用語とその意味 ②				
3	グルーミング犬種とトリミング犬種				
4	断尾・断耳、狼爪切除について				
5	シーザー・マルチーズのペットクリップ ①				
6	シーザー・マルチーズのペットクリップ ②				
7	ヨークシャー・テリアのペットクリップ				
8	プードルのスタンダード				
9	プードルのペットクリップ (テディベアカット)				
10	プードルのペットクリップ (ケネル&ラムクリップ ①)				
11	プードルのペットクリップ (ケネル&ラムクリップ ②)				
12	ミニチュア・シュナウザーのペットクリップ				
13	ポメラニアン of ペットクリップ				
14	後期定期試験実施				
15	後期定期試験の解答と解説				
使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック、プードルの教科書、犬種図鑑)、配布プリント				
成績評価	(最終課題) (授業参加 (出席)	40% 45% 15%	最終課題の方法	記述式試験	
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。				